



本会記事

■広報委員会だより

第15回「おもしろ科学教室」（名古屋大学）での出展

2023（令和5）年1月9日（月）、名古屋大学において小学生を対象とした「おもしろ科学教室」が開催されました。このイベントは、本学会を含む7つの学会、大学及び協会等、あわせて11団体が共催の形で毎年実施していましたが、令和3年から新型コロナウイルス感染拡大防止のため第13回と第14回は中止となり、今年は感染状況が落ち着いてきたため、第15回として再開しました。各団体がそれぞれの分野を子どもたちにわかりやすく伝えられるように工夫を凝らした電子紙芝居、工作教室、展示を行いました。コロナ感染対策のため、実施する催し物の数を絞るとともに、事前に参加者の抽選を行っています。当日は、約170人の親子連れが来場し、子どもたちは講演を聞いたり、科学工作をしたりする合間に、展示に立ち寄って、楽しんでいました。

本学会では、プラズマと核融合に関連した科学技術を紹介、体験する展示として、市販のプラズマボールや電子レンジ等を用いた「プラズマ放電実験」、超伝導体を使った「磁気浮上列車」の展示を行いました。コロナ前は教室前の廊下に展示ブースを設置し、子どもたちは興味を持ったブースに自由に立ち寄っていましたが、今回はコロナ対策で人数を制限して混雑を防止するため、教室内で展示して実演することとし、4回の実演を実施しました。当日は、教室に入場するのに一時、行列ができるほど多くの親子連れが集まりました。教室内で最初は着席した状態で展示の説明を行い、次に子どもたちには各々の展示の間近に来て実演を見てもらいました。子どもたちはコロナ対策のために少し不自由な状況だったかと思いますが、プラズマの発光や回転する磁気浮上列車を不思議そうに観察していました。このような展示を通して、子どもたちが科学に興味を持って、いろいろな視点から考えるきっかけになればと思います。

本イベントには、広報委員会から吉沼幹朗（核融合研）、大野哲靖、田中宏彦（名大）、中村圭司（中部大）、林伸彦（量研）と事務局から杉山恵子が参加しました。このように、広報委員会では、広く社会に向けた情報発信を



実演する教室に入るのに整然と待っていたいただいた皆様。



新型コロナウイルス感染対策して実演。

めざし活動を行っています。広報活動に関するご意見や新しい展示物の案をお持ちの方がいらっしゃれば、ぜひ委員会までお寄せください。

今回の出展にあたり、高井吉明先生はじめ実行スタッフの方々には大変お世話になりました。また、展示物については、核融合科学研究所様よりご提供いただきました。ご協力に感謝申し上げます。

（広報委員会）